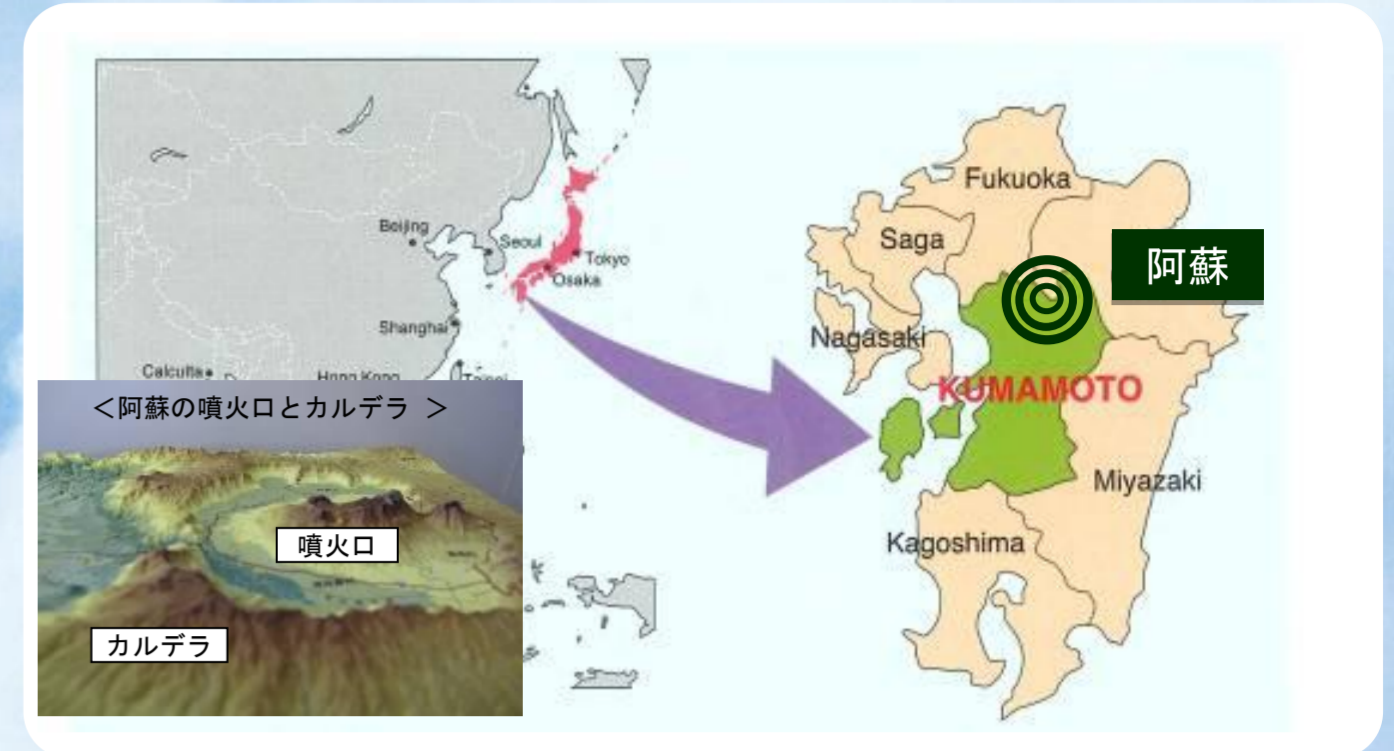


阿蘇の草原の維持と持続的農業

熊本県

世界最大級のカルデラを形成している阿蘇には広大な草原が広がっています。阿蘇には、この草原の持続的な活用を通じて、伝統的な農業や農法、農村文化が受け継がれています。

また、野焼き・放牧・採草という農業活動により半自然草原が維持されたことで、多様な動植物が生育・生息し、素晴らしい景観が維持されています。



《阿蘇の農業》

□阿蘇の農地は火山性土壌で生産性が低かったのですが、長きにわたり草を食べた牛の堆肥や草資源を活用した緑肥により土壌改良されました。

□その結果、阿蘇では稲作や肉用牛のみならず、野菜や花きの生産も盛んに行われています。

<米>



<肉用牛>



<野菜>



<花き>



<森林>



<木材市場>



□カルデラ内外の森林では、全国ブランドとなっている杉やヒノキが植林されています。

《生物多様性》

□阿蘇には、在来品種である“あか牛”が多く飼養されているとともに、在来野菜も豊富です。



<あか牛>



<あかどいも>



<鶴の子いも>



<阿蘇高菜>



<地きゅうり>



<黒菜>

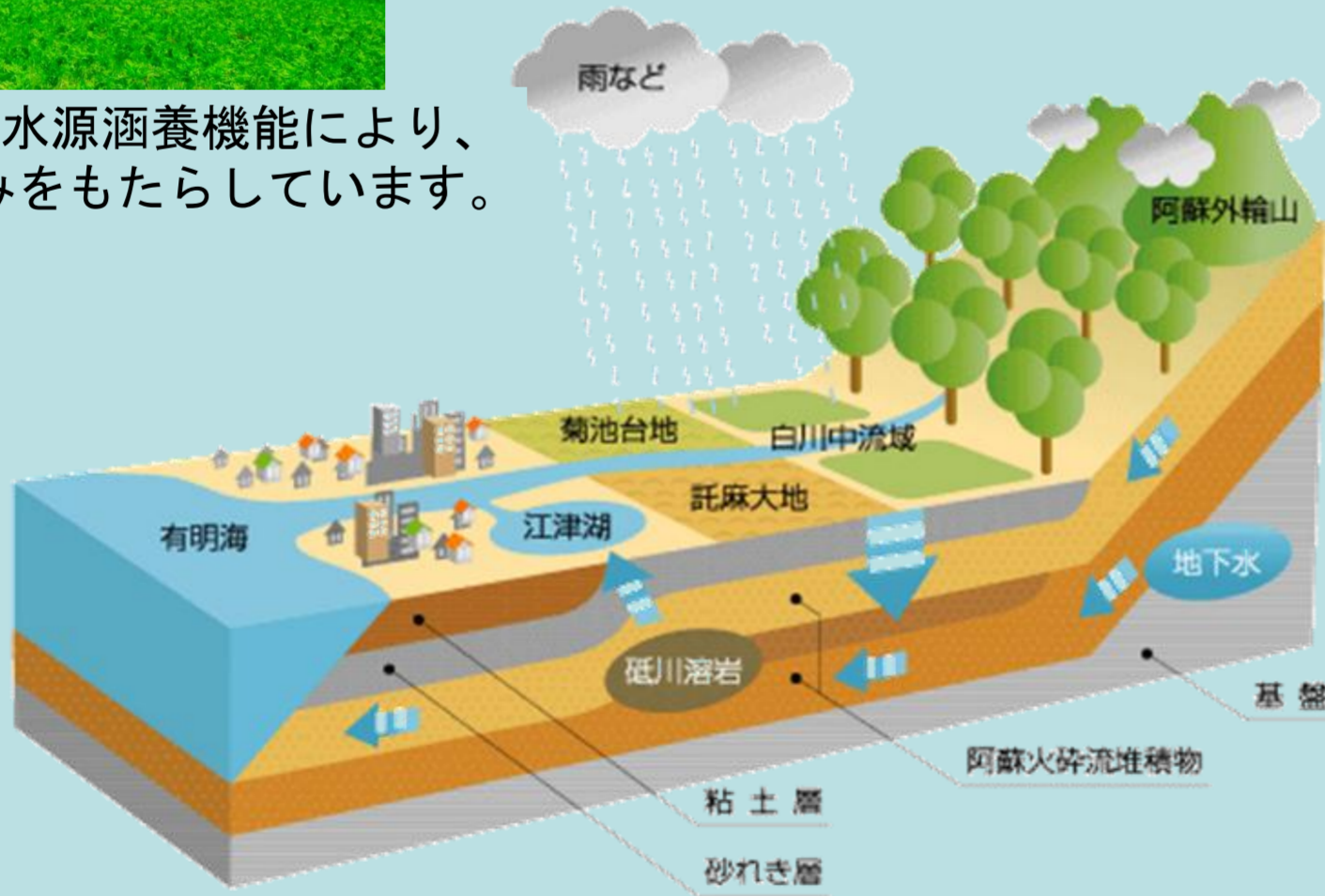
《優れた景観と水の恵み》

□阿蘇は、草原、森林、水田が維持保全されることでスケールの大きな優れた景観が形成されています。

<優れた景観>



□草原、森林、水田の水源涵養機能により、下流に豊かな水の恵みをもたらしています。



《阿蘇の持続的な草原システム》

□阿蘇は温暖湿潤な気候にありながら、野焼き、放牧、採草という人間の農業生産活動により草原が維持されています。



□広大な草原がもたらす草資源は、放牧、飼料、堆肥のほか、屋根材やバイオマス資源として使われてきました。

□草原が維持されることにより希少動植物も保護されています。



<オオルリシジミ>



ハナシノブ

《農業と関わりの深い伝統文化》

□阿蘇では古来より「火」「水」と共生しながら農業生産を発展させてきました。□このため、現代でも「火」「水」そして「農業」に関わりの深い祭りや儀式、祭事が数多く残されています。



火振り神事

3月の「火振り神事」は、阿蘇12神の一人「国龍神」と姫君の結婚を祝い、境内で束ねた火の輪を廻すダイナミックな祭りとして有名です。



阿蘇神社

阿蘇神社は、速瓶玉命(はやみかたまのみこと)が紀元前282年に両親を祀ったのが始まりと言われています。

《今後の取組》

私達は、阿蘇の「宝」を次の世代に引き継いでいくため、行政と民間が一丸となって様々な活動をしています。

<阿蘇草原再生シール>



<全国からの野焼きボランティア>



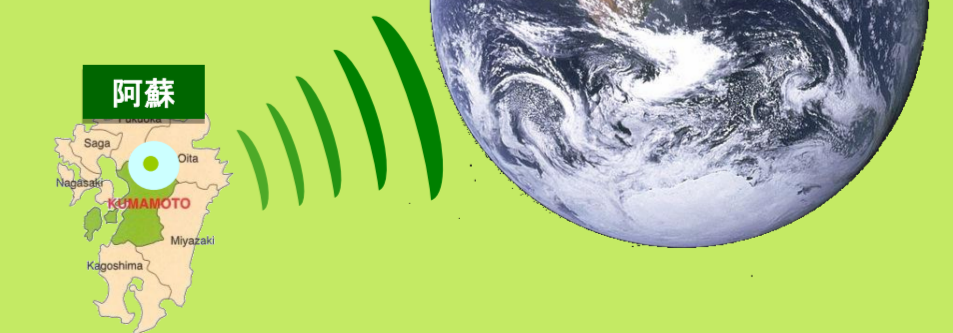
このほか、将来の担い手である子ども達に対して、草原、農地、森林における環境学習や生き物調査などの教育活動を進めています。

《先進国型GIAHSとして世界に貢献》

発展途上国においても、工業・サービス業の発達により、地域の特徴的農業が喪失しています。

阿蘇は、厳しい環境の中でも農業者が多様な農業を維持し、地域住民と共に生物多様性や伝統文化を守るモデルとなり得ます。

阿蘇ならではの農業システムを「ASOモデル」として世界に発信していきます。



《阿蘇地域世界農業遺産推進協議会》

阿蘇市、南小国町、小国町、産山村、高森町、南阿蘇村、西原村、熊本県、熊本県立大学、熊本県立阿蘇中央高校、阿蘇農業協同組合、南阿蘇畜産農業協同組合、阿蘇森林組合、水土里ネット阿蘇、(公財)阿蘇グリーンストック、(財)阿蘇地域振興デザインセンター、阿蘇市観光協会、阿蘇地区商工会連絡協議会、阿蘇内牧温泉ゆうすげ会、阿蘇農業協同組合青壮年部、阿蘇農業協同組合女性部フレッシュミズ、「食の大地・くまもと」世界農業遺産推進研究会

HP <http://www.pref.kumamoto.jp/site/giahs/>

